

## 閉会式

## 次期開催地あいさつ

環境自治体会議事務局 事務局長

中口毅博

通常次期開催地挨拶には、次の開催地の首長、実行委員会の方がステージに上がるが、実は来年度は環境自治体会議事務局主催で東京で行うことになった。来年度立候補する自治体がなく、開催しないということも選択肢として考えたが、やらないよりもやった方がいいということで事務局開催をすることとした。スタッフも限られており、全体をスリム化して挑戦をしたい。みなさんのご支援・ご協力を賜ればと思っている。来年度みなさまと東京でお会いできるのを楽しみにしている。



(いこま会議実行委員会から東京事務局へバトンタッチ)

## 閉会あいさつ

生駒市長 小紫雅史

3日間の長い会議、最後までありがとうございました。生駒市役所はもちろんのこと、参加した皆様には、会期中にメモした多くのことを地元で実践していただければ、いこま会議の意義が本当にあったことになる。生駒市でもこの経験が生駒市の市民力として今後花が開いていくと思う。

このたび貴重な機会を与えていただいた環境自治体会議の皆様、集まっていた皆様に感謝する。住宅都市からの挑戦ということで、生駒市も住みやすい楽しいまち、環境を切り口にしたまちづくりをしている。ここに住んでい

る皆様が素晴らしいと思い、他市の方が移り住みたいと思うまちにしたいと思っている。

環境自治体会議は素晴らしい意義を持った組織だと思う。来年は東京開催、その次は北海道札幌町で開催される。環境自治体会議の意義をしっかりと私も応援し、これから発展させていきたい。本日は本当にありがとうございます。



(小紫市長 挨拶)

いこま会議実行委員長 久保昌城

3日間ありがとうございました。環境自治体会議いこま会議が本日、盛況のうちに全てのプログラムを終えた。これも全国各地からの皆様のご協力のおかげだと思っている。講師の皆様、コーディネーターの皆様、この会議の準備をしてくれた多数の方々にお礼申し上げる。歴史と文化、最先端の科学技術のある生駒市、そして環境自治体会議が今後更に充実、発展することを願うとともに、皆様のご健康、ご多幸、ご健勝を祈願し、閉会のあいさつとする。



(久保委員長 挨拶)

## 環境自治体会議いこま会議実行委員会

生駒商工会議所 会頭 久保昌城

生駒市自治連合会 会長 藤堂宏子

生駒市健康づくり推進員連絡協議会 会長 藤尾庸子

生駒市環境基本計画推進会議 代表 楠下孝雄

生駒市校園長会 代表 原井葉子

北田原工業会 会長 高桑真樹

生駒市観光協会 会長 池田英憲

生駒市農家区長会 会長 相川竹一

生駒市農業振興協議会 会長 井上良作

生駒市ボランティア連絡協議会 会長 長谷川明美

生駒市生涯学習推進連絡会 会長 川崎ひろ子

いこま寿大学 学生委員長 山下榮

生駒商工会議所青年部 会長 今柳剛

一般社団法人市民エネルギー生駒 理事長 楠正志

特定非営利活動法人関西ワンディッシュエイド協会 理事長 樽井雅美

生駒市環境基本計画推進会議 副代表 矢田千鶴子

生駒市環境基本計画推進会議 運営委員 武田友希

## いこま会議宣言

今回、私たちは「住宅都市からの挑戦～近未来のライフスタイル～」をテーマに、生駒山に象徴される緑豊かな生駒山地をはじめ、緩やかな矢田・西の京丘陵などの心和む自然環境に囲まれ、美しい水と緑の織り成す恵み豊かなここ生駒市で、第23回環境自治体会議に集いました。

過去22回の環境自治体会議で積み重ねられた知識や経験に加えて、生駒会議3日間の交流を通して、取り組むべき問題の現状と解決方法やこれからの行動指針を学ぶことができました。住宅都市として直面する課題は、全国すべての自治体も抱える共通の課題といえます。これらの課題を解決するためには、住民や事業者など地域に関わるすべての人々がお互い知恵を出し合い、協力し合うことが最善の方法であることを再認識しました。

生駒市は、住宅都市の財産ともいえるべき「市民力」を中心に市民団体、市内の事業者との協働による取組により課題の解決を図ってきました。ここに集う私たちは、これまで行ってきた市民や市民団体、市内の事業者との協働による取組を継続し、更に発展させていくことで、それを通じた市民の利便性の向上、産業活性化、防災力の強化などを図り、都市が抱える課題に対応していくため、“待ち”から“攻め”の姿勢で以下のことを進めていくことをここに宣言します。

1. 次世代の技術とそれを使いこなす市民がつながって、住宅地や集落などの小さな地域やまち全体で環境イノベーションを起こしていきます。
2. 子どもと大人、お年寄りと若者など、多世代で楽しく住めるよう、まちのかたちを維持したり、作り替えます。
3. 宅地と農地、森林、水辺のつながりを認識し、資源を循環させ、ごみ減量など環境負荷を低減するとともに、生物多様性の確保を図ります。
4. 消費者と企業がつながって、省エネや創エネを協働で進めるとともに、環境にやさしい商品の需要を喚起し、産業のグリーン化を進めます。
5. 地域をつなげる多様な交通手段により、利便性が高く環境にもやさしいまちをつくれます。
6. 住民と事業者と行政がつながって、住宅地や集落の宝を見つけ、それを活かしたまちづくりや環境保全活動を主体的に行う人づくりを進めます。

平成27年5月23日 いこま会議参加者一同



第23回環境自治体会議 いこま会議 報告書

お問い合わせ先  
環境自治体会議いこま会議実行委員会事務局  
生駒市 環境経済部 環境モデル都市推進課内  
〒630-0288  
奈良県生駒市東新町8番38号  
TEL : 0743-74-1111 (内線 376) FAX : 0743-75-8125  
E-mail : eco-model@city.ikoma.lg.jp

第23回環境自治体会議いこま会議は、環境省の基準に基づき、カーボン・オフセットを実施しています。